

亡き娘に捧げる絵本

浜松市の浜名湖で2010年6月、野外実習中のボート転覆事故で亡くなった豊橋市立章南中学校の西野花菜さん(当時12)の両親が、娘との思い出をつづった絵本を出版した。題名は、花菜さんが事故前夜に書き残した言葉「夢があるっていい」。事故から4年余、再発防止を訴え続けてきた母親の光美さんは「やっと娘と向き合えたことができ、花菜が喜ぶ絵本にしたかった」と話す。

物語は、難病を患い、足が不自由な「お母さん」を明るく支えていた「花菜ちゃん」の乗ったボートが、嵐で海に沈んでしまう。残された水色のカバンを開けると、花菜ちゃんが描いた絵と、「人を助ける医者になりたい」という将来の夢が書かれたしおりがみつかる。「お父さんとお母さんは最期まで、花菜ちゃんの優しさにつつまれていたのでした」と締めくくられている。

難病の母を看病

光美さんは、10年ほど前

浜名湖ボート事故で犠牲

豊橋の両親「やっと向き合えた」

に難病を患い、入退院を繰り返している。花菜さんは、入院中の光美さんに付き添い、懸命に看病していたという。花菜さんは、幼い頃からピアノやバイオリンなどを習い、将来は「音楽を教える人になりたい」と話していた。

しかし、事故前夜の夜に書かれた文章で「私の将来の夢は医者だ。私はたよられる医者になりたい」とつづっている。

光美さんは「全然、知らなかった」。父親の友章さんは「病気の母親を助けたかったのだと思う」と振り返る。

友章さんと光美さんは、事故後、原因究明や再発防止を願い、署名集めや豊橋市を相手にした訴訟などに追われ、忙しい日々を送ってきた。

昨年12月、少しずつ自分たちの時間を持つことができるようになり、ずっと温めていた絵本づくりを始めた。事故の悲惨さや再発防止を訴えるのではなく、花菜さんの優しさや無邪気さ

を、小さな子どもにも分かるよう、24ページの絵本に表現した。

支援に感謝して

挿絵は、事故後に絵を届けてくれた刈谷市在住のイラストレーター久保田裕美さんが担当した。花菜さんが大好きだったピアノやバイオリンがあしらわれ、かわいがっていた手乗り文鳥「ブルー」が、絵の中に隠れる仕掛けが施されている。



花菜さんの思い出をつづった絵本を手にする父親の西野友章さん＝豊橋市杉山町

8月初めに退院し、絵本を手にした光美さんは「明るく、優しい絵本ができた。いつまでも花菜が残したメッセージを忘れないでほしい」。友章さんは「死んでしまうと夢はかなわなくなる。だからこそ、悲しい事故は防がなくてはいい」と話す。

絵本は100冊つくった。これまで支えてくれた人たちへの感謝の気持ちと、「夢に向かって進んでほしい」との願いを込めて届けている。また、図書館など豊橋市内の教育施設にも置いてもらえるよう要請したほか、野外実習に引率した教師にも読んでもらうという。

(松永佳伸)

事故4年 やっと娘との時間

浜松市の浜名湖で二〇一〇年六月、野外活動中のボートが転覆した事故で、娘＝当時（二）＝を失った愛知県豊橋市の西野光美さんが絵本を出版した。題名は娘の花菜さんが事故前日に書き残したメッセージ「夢があるっていい」。事故から四年余、真相解明や訴訟で慌ただしく過ぎた。「やっと娘のためだけを考えて作ることができた」と語る。（豊橋総局・小椋由紀子）

事故の数日後、帰ってきたのは、花菜さんの水色のかばんだけだった。中にあった野外活動のしおりに、花菜さんの「夢」が書かれていた。「私の将来の夢は医者だ。私はたよられる医者になりたいなと思った。夢があるっていい」

その夢は、母のためだった。光美さんは十年ほど前に難病を患い、入退院を繰り返してきつた。花菜さんは車いすを押したり、病院内に書類を取りに行ったり、入院先でも母に付きっきりだった。光美さんは「最後まで、花菜の優しさに包まれていた」と振り返る。

光美さんと夫の友章さん（五）は事故後、真相解明や再発防止を願い、署名集めや市議会への請願、豊橋市

浜名湖ボート転覆 遺族、思い出を絵本に

を相手にした訴訟に追われた。「ようやく自分の時間がとれるよう」になり、花菜さんが残したものを、小さな子にも分かるよう絵本にしたいと思った。

昨年末から構想を温め、事故後、花菜さんに絵を送ってくれたイラストレーターに作画を依頼。花菜さんの思い出や事故のこと、父と母からの思いを二十四ページにつづり、かわいらしい絵を選んだ。光美さんは「悲惨な事故で花菜は怖い思いもいっぱいした。娘のために明るい、優しい絵本にしたかった」と話す。

百部を印刷。図書館など市内の教育施設に置いてもらい、引率した教諭たちにも配るつもりだ。「花菜が残したメッセージを忘れないでほしい。それが結果的に風化防止になる」



浜名湖ボート転覆事故 浜松市北区の

浜名湖で2010年6月、

野外活動中だった豊橋市章

南中学の1年生18人と教諭

2人が乗った手こぎボート

が悪天候で操船不能にな

り、モーターボートでえい

航中に転覆。全員が湖に投

船体内側に閉じ込められた西野花菜さんが溺れて死亡した。両親は12年5月、豊橋市などに損害賠償を求めて提訴。10月に和解が成立し、市長が両親に謝罪した。

静岡県警は13年2月に業務上過失致死容疑で、章南中

の校長ら6人を書類送検。

静岡地検が捜査している。

花菜の絵本できたよ

浜名湖ボート事故

両親思い出つづる

浜名湖(浜松市)で2010年に起きたボート事故で亡くなった豊橋市立章南中1年、西野花菜さん(当時12歳)の両親が、娘の思い出をつづった文章にイラストを添えた絵本「夢があるっていい。」を出版した。



完成した絵本を手にする友章さん

母親の光美さんが文章を書き、父親の友章さんはパソコンでレイアウトにあたった。光美さんは「事故の後、原因究明や再発防止に明け暮れてきたが、やっと娘と私たちだけのことを考えられるようになった。花菜が喜ぶ本ができた」と笑顔を浮かべた。

絵本を作る計画は、娘との思い出を形にしたいと考えていた両親と画家の久保田裕美さん(刈谷市)が昨年暮れに出会って動き始めた。何度も打ち合わせ、7月中旬ようやく完成した。各ページには、花菜さんがかわいがっていた白い文鳥がどこかに隠れている。

絵本は難病で足が不自由な光美さんの通院や入

院を小学生の花菜さんが懸命に支えた思い出から始まる。

「お父さんもお母さんも花菜ちゃんの明るい優しさにつつまれていました」という家庭は事故で一変。「花菜ちゃんはずっと、大好きなお家には帰って来ません。中学からは花菜ちゃんの水色のカバンだけが帰ってきました」と書かれ、カバンには事故の前夜、花菜さんが書いた野外学習のしおりが入っていた。

「将来の夢」と題された文章には「私がなりたいのは医者です」とあり、「いろんな人のけがや病気をなおして笑顔にしたいから」と、母を思いやる決意がうつられていた。「けなげな気持ちに涙がこぼれました」と光美さん。友章さんは「子どもが亡くなると、夢も消えてしまう。悲しい事故を二度と起こしてほし